

第 6 章 ノンパラメトリック検定 (修正箇所 2019 年 2 月 14 日)

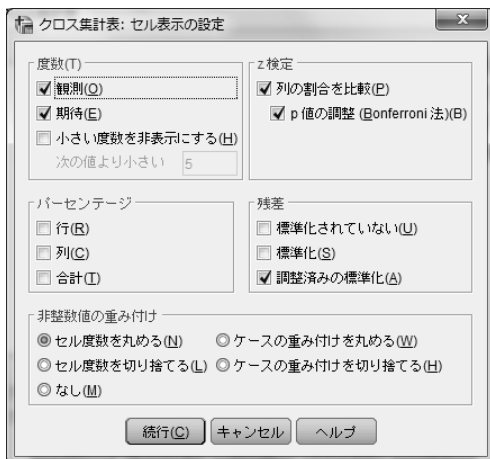
p. 154 表 6.5

1.62 → 3.130

0.36 → 0.290

2.13 → 5.233

p. 156 図 6.11



本文下から 7 行目

⑥ (図 6.12) と進み, → (図 6.12) と進みます。

本文下から 6 行目

および「残差」欄の「調整済みの標準化 (A)」にチェックを入れ,

→ 「残差」欄の「調整済みの標準化 (A)」, および「Z 検定」欄の列の割合を比較(P) と [P 値の調整 (Bonferroni 法) (B)] にチェックを入れ,

成績と暗記方法のクロス表

			暗記方法			
			両方	書き写す	声に出す	合計
成績	下位群	度数	4a	7a, b	10b	21
		期待度数	8.8	5.3	6.9	21.0
		調整済み残差	-2.7	1.1	1.8	
	中位群	度数	6a	4a	6a	16
		期待度数	6.7	4.1	5.2	16.0
		調整済み残差	-.4	.0	.5	
	上位群	度数	13a	3a, b	2b	18
		期待度数	7.5	4.6	5.9	18.0
		調整済み残差	3.2	-1.0	-2.4	
合計	度数	23	14	18	55	
	期待度数	23.0	14.0	18.0	55.0	

各サブスクリプト文字は、列の比率が .05 レベルでお互いに有意差がない暗記方法のカテゴリのサブセットを示します。

本文下から 4 行目

(4) [調整済み残差] (図 6.14) : 次にどのセルが期待値からずれているかをクロス表内の [調整済み残差] から判断します。合わせて、図 6.14 下に説明されているように、列の比率の比較も見ていきます。[下位群] 内では、5%水準で有意に、[両方] が [声に出す] より少なく、(-2.7) と 1%水準棄却値 (2.56) より有意に低い値になっています。続いて、中位群内で有意差が見られませんが、[上位群] 内では、[両方] (3.2) が、[声に出す] (-2.4) より有意に多く、調整済み残差からも 1%水準棄却値よりも大きな値になっています。